

2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属

社会学研究科

社会学専攻

担当科目

質的調査法

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

2009 年の秋学期から始った質的調査法の講義である。講義参加する人数が百人を超えた。社会学専攻する者に調査方法として、その基本的考え方と手法を理論的・実践的に学ぶ。質的調査法が前提とする研究とは何か、そこで基盤とされる諸々の研究上の立場、方法論も射程に入れ、調査・分析方法を具体的に習得できる講義である。経済学・人文学・政策などの参加者もたくさん来ていた。

1. 講義出席

講義に参加する学生が遅刻する状況をよく見える。質的調査法を受ける目的としては、社会調査士の資格を取りたい者が多いようですが、具体的な質的調査に関する知識は不十分であって、質的調査法とは何か、その基本的立場や考え方について理解し、具体的な諸手法について学び、これらを用い方・有効性・用いる上での留意点などの基礎知識を身に付ける意識がするべきである。それと、学生の好奇心を引き出す方法を考えるべき、そして、講義に参加する目的に関しては、明確したほうが自分自身に知識を身につけることに役に立つでしょう。

2. 授業態度

たまに、私語を聞こえるのが、基本的な授業態度が積極的だとみられる。私も質的調査に関して、もっとマスターになって、たくさん学生の意見も聴かせて、自分は気が付いていなかったことも納得した。それと、先生の話がおもしろくて、全体的な調査経緯を聴き、調査過程の中で、何かは大事なことをわかった。アンケートよりインタビュー調査データを分析する難しさをわかり、その分析方法も学ぶことができたという。学ぶことにとって、学習の態度を正すのは、学生には当たり前のことだと認識している。

3. 最終レポート

授業を行いながら、企画書や最終のレポートの課題としてさせた。質的調査法という授業を通して、学んだことを生かす大事な勉強だと思う。詳しい調査企画を立て、自分自身の興味がある調査にインタビューする際に、何か注意すべきなのかと書かれた。せっかく質的調査法の講義をとっていたのに、量的調査を企画してレポートに書かれる学生もいたのが、講義をとる意義がなくなると考える。自らの調査課題について、具体的に諸手法の適用・応用を検討するべき、具体的な事例の中から、どのような課題にどういった手法が適切であるか、どのような成果はどういう提示の仕方が有効かなどを整理・判断する能力を身につけると考えた。

<今後のチューターまたは先生への提案>

毎回の出席とコメント要旨はもう少し明確的に